「屋根の上のヴァイオリン弾き」17年、また帝劇へ

あの日の感動 お子さんにも

企画・制作＝毎日新聞社広告局

あの「屋根の上のヴァイオリン弾き」が、四、五月帝劇へもう一度帰ってくる。初演から十七年。一昨年までの上演回数七〇七回、観客数百二十五万人という金字塔を打ちたてた不滅のミュージカル。初演の時独身だった世代も、今は父や母になっている。当時、父や母からこの感動のドラマをきいた子供たちが、今では観客としてこのミュージカルを観に来ている。この舞台には、時代を超えた感動がある。

変わらないのはテビィエを演じ続けたただ一人の人、森繁久弥である。

「テヴィエ」にふんして17年、観客の胸を打ち続ける森繁久弥

主役 演じ続けて707回 森繁久弥さん

嬉しい客層の広がり

「一昨年の六カ月ロングランで打ち止めのつもりだったんです。健康管理が大変で疲れるんですよ」

しかし、アンコール上演の要望が強く、名古屋で二カ月、東京で二カ月のロングランが決まった。

「ありがたいことです。お客さまの方から『やれ』といって下さる舞台というのはそうはない。いい作品にめぐりあえた幸せをしみじみと感じています」。

七〇七回の上演記録を持つ舞台だが、また一からスタートするという。

「初心に返って作品と向かいあう。気負いはいかん、過信もいかん、ましてや狎（なれ）はなおいかん。今回は新しいキャストも一部加わりますし、一からやり直します」

初演から十七年、昔風にいうなら一昔以上の歳月が。

「初演の時、観てくれた小学生が今は父親になっています。そんな人が、もう一度観ましたといった手紙をくれる。嬉しいですね。老若男女、いろんな人が、この舞台を見て下さった。何が嬉しいといってこの幅の広がりが一番嬉しい」。

公演のたびにファンから舞台の感想を書いた手紙や葉書がくる。すでに二万通近い手紙が来たそうだ。

「面白いことに、すべて内容が違う。それぞれが、ここで感動しましたと書いて下さるのですが、その個所が違う。ということは、この作品が人間についてのさまざまな面を書いているということです。人間は大人になると角がとれるという。ふつう角が磨滅して丸くなると考えられがちですが、実はそうじゃない。角が無数に出て来て、結果的に球に近くなるということだと私は思っています。

この作品の見事さはそうしたお子さんという世話好きのお婆さん。仲人が趣味で仕事、というかこにでもいそうなお婆さんだ。

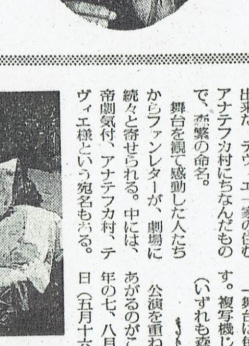
「初演の時は三十歳代のおばさんのつもりで役作りしたんですが、年よりの方がさみしさを出せると思って再演の時から六十歳代に老けたんですよ。だからイエンテだけは初演に比べると三十年たったってわけですね」

初演から出演だが、役が変わったのが淀かおる。初演の時は芸名も「かほる」で、長女ツァイテルの役だった。五十二年公演からおっかさん役のゴールデンになり、今ではすっかり持ち役とした。

「初演の時婚約し、公演が終わったあと結婚したんですよ。宝塚をやめて女優として一本立ちした直後の舞台で、これが出世作。その後、私自身も母親になりましたが、役のほうもお母さんになってずうっとでしょ。この分でいくと、出世作が引退作になるんじゃないかしら――」

人気にあやかって「アナテフカン」というロシア菓子が出来た。テヴィエ一家の住むアナテフカ村にちなんだもので、森繁の命名。

舞台を観て感動した人たちからファンレターが、劇場に続々と寄せられる。中には、帝劇気付、アナテフカ村、テヴィエ様という宛名も書く。



初代「ゴールデ」役は越路吹雪だった

若い人に観て貰いたい。その意図で五十三年から五十七年までの席は二千円にすえおいた。今回は三千円。

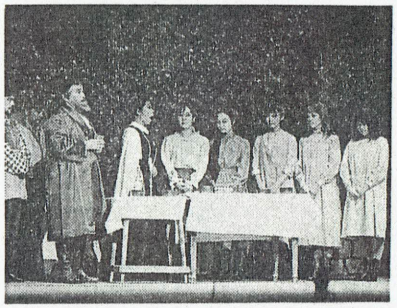
皇太子と夫妻をはじめ、皇族、内外の多くの知名人がこの舞台を楽しんだ。そんな有名人の一方、八百屋（ろう）学校の生徒十五人が修学旅行を兼ねて観劇したり、自閉症の人が見に来たりした。

観客百万人突破は五十七年六月十五日、五八一回目の公演。百万人目は静岡市の美容師横山君江さん(26)。二度目の観劇だったこうで、記念にと、ご主人ともどもブロードウエイへ招待された。

五十七年五月から十月までの六カ月ロングラン。百六十八回公演で三十二万人を動員した。興収二十億円。この間売れ残った切符二枚。台風の日の当日券だった。

森繁久弥は開演一時間前に楽屋入り。四十分前からテヴィエの支度にかかり、十分前に舞台へ降りる。五分程軽い体操をして開幕を待つ。公演が終わるとたくただという。楽屋で一時間休んで、自宅へ。

「七〇七回も小さな通過駅だ。終着駅ははるかに遠い」（終演後の森繁久弥の言葉）



初演の舞台。右端が岡崎友紀、その左いしだあゆみ

長い間のちょっといい話

みた泣いた125万人

初演から十七年。この歳月五十五年六月、いしだあゆみはさまざまなエピソードを生んだ。「屋根の上のヴァイオリン弾き」を紹介すると――

「初演の時は、ただ出ていただけ。その後、曾我千恵子さんのホテルをみて感動しました。その役が自分にまわってくるなんて……」（いしだあゆみ、57年の記者会見で）

初演の時、子役で出ていたのがいしだあゆみ（三女の役）、岡崎友紀（四女の役）。二人とも大したせりふは一昨年八、九月に、ともに一年八、九月に、ともに二女のホテル役で再出演。

とくに賀原夏子は自分が主宰する劇団NLTをかかえての連続出演。「東宝の俳優じゃないのに十七年間やり続けてきたわけね。なぜか、やめられないのよ、この役」。

一方、初演からずっと同じ役で出演しているのが、森繁以外に、主役では益田喜頓、観賀不二男、賀原夏子、三上直也、高橋郁子の五人。

「忘れていた愛が――」

公演中の手紙から

毎日、子どもたちを相手の仕事をしていますが、忙しいう。あなたが沖縄の人々に残した感動は、いまだ続いています。戦禍の中で自らの生命を危険にさらされ、そして平和を、やすらぎを求めて山野を逃げまわった者には、テヴィエの苦しみと悲しみがじかに伝わってくるのです。

（沖縄テレビ・又吉康弘さん）

◇

駅の別れとラストシーンは忘れられません。

（高松、佐藤恵一さん）

◇

一番気に入った場面、このミュージカルのすべてがこの場面に含まれているんじゃないかって気がします。

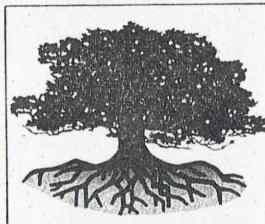
（東大阪・飛田恵理子さん）

「結婚式」の場面。ここが一番気に入った場面。

◇707回までの歩み◇

上演劇場	年月	上演回数
帝劇	67.9－10	75
日生劇場	75.2	37
中日劇場	76.5	27
神戸文化ホール	〃	3
帝劇	76.8	40
宮城県民会館	77.10	7
岩手県民会館	〃	2
八戸市公会堂	〃	3
函館市民会館	〃	2
札幌厚年会館	〃	3
中日劇場	77.10－11	16
梅田コマ	78.9	35
帝劇	78.11－12	71
福岡郵貯会館	79.11	7
熊本市民会館	〃	3
大分文化会館	〃	3
松山市民会館	〃	3
徳島文化センター	〃	3
広島郵貯会館	〃	4
神戸文化ホール	〃	3
鹿児島文化センター	〃	3
那覇市民会館	79.11－12	4
帝劇	80.4－6	102
中日劇場	81.6	30
札幌厚年会館	81.7	7
宮城県民会館	〃	7
新潟県民会館	〃	4
柏崎市民会館	〃	4
石川厚年会館	〃	5
梅田コマ	82.3	26
帝劇	82.5－10	168
合計		707

今春開校
最新鋭汎用コンピュータによる少人数制本格教育
情報処理科（昼間）1・2年課程
オペレータ・初級プログラマー養成
情報システム科（昼間）2年課程
プログラマーシステムエンジニア養成
●各科共全日制・男女　●願書受付中
●案内書無料送付　●週5日制
コンピュータプログラマー養成機関
ハクビ
コンピュータ専門学院
〒170 東京都豊島区北大塚1-15-6
☎ 03-940-6770


全国の信用金庫をしっかり結ぶ
全信連
全国信用金庫連合会
本店／〒104 東京都中央区京橋3丁目8番1号